

夏に降った大雪

浅間様の伝説

匠探訪

「オセンゲン様」浅間まいり」という言葉を耳にする季節となりました。「センゲン」とは、

富士山をご神体とする「富士山本宮(ほんぐん)浅間神社」のごとで、そのご利益にあやかろうと各地にまつられました。富士山の山開きは7月1日ですが、各地の浅間神社では6月1日に

富士まいりの行事をする地域もあります。

浅間神社は全国に1300社ありあつて、その約9割が関東、中部地方に分布しているとされます。平成18年度の『千葉県宗教法人名簿』によると、市内66の神社のうち、浅間神社は田町(中央地区)、横須賀(須賀地区)(南山崎(吉田地区)の3社が登録され、田町や南山崎の浅間様は富士山に見立て小高い所にまつられています。

市場52、旧野栄6の合わせて58でした。このうち石宮の浅間宮を含め社としてまつられているのが20を超えます。

石宮でもっとも古いものは、平太(平和地区)の1713年、宮本(匠探訪地区)の1750年が続き、1800年から1850年にかけて信者の集まりの「講中」が建て、東小笹(共興地区)のものには「富士講中」とあります。石宮などがなくてもかつて浅間様がまつられた場所は、地名や屋号として「センゲン」として残っているものもあり、江戸におとらず浅間信仰が盛んだったのでしょう。

旧野栄町域の野手・円長寺前の浅間神社には、次のような伝説があります。

ある時、野手の村びとが子孫や子供の守り神として旧暦6月1日に富士山の浅間大権現をまつろうとしました。すると、その日はふしぎなことに大雪が降って、野手村は一面の銀世界になりました。村びとたちは、浅間様のご神体が富士山の雪とともに野手に舞いおりたのだらう、と語りあつたといひます。

浅間様をまつる富士塚には、

同様な伝説が各地にあります。

6月1日の浅間まいりで、人びとは本格的な夏の到来を感じ取ったのでしょう。

間八日市場図書館 ☎ 73・3746



大雪伝説の伝わる浅間神社(野田地区野手)

富士浅間信仰は1750年ごろから江戸で流行し、信者の集まりである「富士講」が、江戸八百八講」といわれるほどでした。この地域にもそうした影響が及んだようです。江戸時代の村つまり現在の大字区域は旧八日